

延岡高 創立120周年

記念式典

気持ち新たに躍進誓う 10/9 全校生徒、卒業生900人がお祝い



延岡市の延岡高校（宮野原章史校長、737人）の創立120周年記念式典が18日、延岡総合文化センター大ホールであり、出席した全校生徒や卒業生など約900人が節目を祝い、伝統を引き継ぐ気持ちを新たにさらなる躍進を誓った。

開会を前に演劇部の部員が、プロジェクターで投影した写真を用いながら歴史を振り返る寸劇を披露。全校生徒は、役者の「元気に延高賛歌を歌いましょう」のセリフ後に起立し、ホール内に歌声を響かせた。

式典で宮野原校長は

……

全校生徒で校歌と延岡高校賛歌を斉唱し、新たな一歩を踏み出した

「伝統校としての長所を十分に発揮しながら、生徒の成長につながる新しい教育活動に挑戦していく」と決意を表明し、在校生に「伝統を継承して進化させるといふ責任を自覚し、先輩を超える姿勢を引き継いでほしい」とエールを送った。

同窓会の池上武博会長は「長い歴史と伝統を持つ高校の節目に、深く関わられたことを誇りに思

う。また、それを受け継がなければならないと改めて感じた。これからも先生方が一つになって進化させ続けてほしい。今後も母校に対する支援と協力を惜しみなく行う」とあいさつ。

生徒を代表してメディアカルサイエンス科2年の下野莉子さんが「いまは在校生として節目を迎えているが、10年、20年後も社会人として別の立場から延高に貢献したい」と宣誓し、「後輩が延高に行きたいと思えるよう、先輩を追い越して新しい伝統を築いていきたいと思います」と呼び掛けた。

この後、吹奏楽部の演奏に合わせて出席者全員で校歌を斉唱。卒業生で昭和初期に詩壇の第一線で活躍した詩人・渡辺修三が、1958年に書いた歌詞をかみしめて歌い、新たな一歩を踏み出した。

県北で最も古い延岡高校の前身は、1873年に旧延岡藩主だった内藤家によって設立された延岡社学。創立記念日は、県立延岡中学校が開校した99年に定めている。校舎のほとんどを焼失

した1945年の延岡大空襲や移転、分離を経て59年、現在の校名に改称。郷土の歌人・若山牧水が「空の先駆者」とされる後藤勇吉をはじめとして、国内外で活躍する多くの人材を輩出している。

延岡市の歴史や文化を学ぶ

10/19 姉妹都市 いわき市の職員4人

延岡市と兄弟都市の盟約を結んでいる福島県いわき市の職員が、10日から延岡市で職員相互派遣研修をした。延岡の歴史・文化の学習や職員同士の情報交換、12日には城山公園で開かれた天下一新能を鑑賞し、13日に帰った。

興課の高倉温子さん(43)の4人。

山本一丸副市長から歓迎の言葉を受けた4人は、座学で延岡市の概要や歴史・文化などを学んだ後、北川町の道の駅北川はゆまや西郷隆盛宿陣跡資料館などを見学。家田温原では、同温原に生息する希少な植物や生物などの説明を聞いた。

11日は、4人がいわき市で所属する部署と関係する各課との意見交換の後、エンクロスや旭化成延岡展示場、千徳酒造などを視察。最終日は高千穂町内などを見た後、延岡市に戻って天下一新能の鑑賞し、幽玄の世界を堪能した。

高木さんは「話を聞けば聞くほど、両市の歴史や食のつながりの深さを感じる。4人とも延岡は初めて。交流を深めるとともに、いわきに帰って延岡の風土や人について話し、延岡ファンをつくりたい」と話していた。

両市は、警城平藩主だった内藤正樹公が延岡に移されて250年目の節目となる1997年に兄弟都市盟約を締結。研修は、両市の交流の一環として同年度にスタート。東日本大震災後は休止していたが、2014年度から再開している。

訪れたのは、こどもみらい部こども家庭課の塩幸子さん(59)、生活環境部環境監視センターの平子美枝さん(46)、保健福祉部平地区保健福祉センターの高木洋平さん(43)、市民協働部地域振

興課の高倉温子さん(43)の4人。

高木さんは「話を聞けば聞くほど、両市の歴史や食のつながりの深さを感じる。4人とも延岡は初めて。交流を深めるとともに、いわきに帰って延岡の風土や人について話し、延岡ファンをつくりたい」と話していた。

延岡市北川町の家田温原で説明を聞くいわき市の職員(10日)



修は、両市の交流の一環として同年度にスタート。東日本大震災後は休

止していたが、2014年度から再開している。